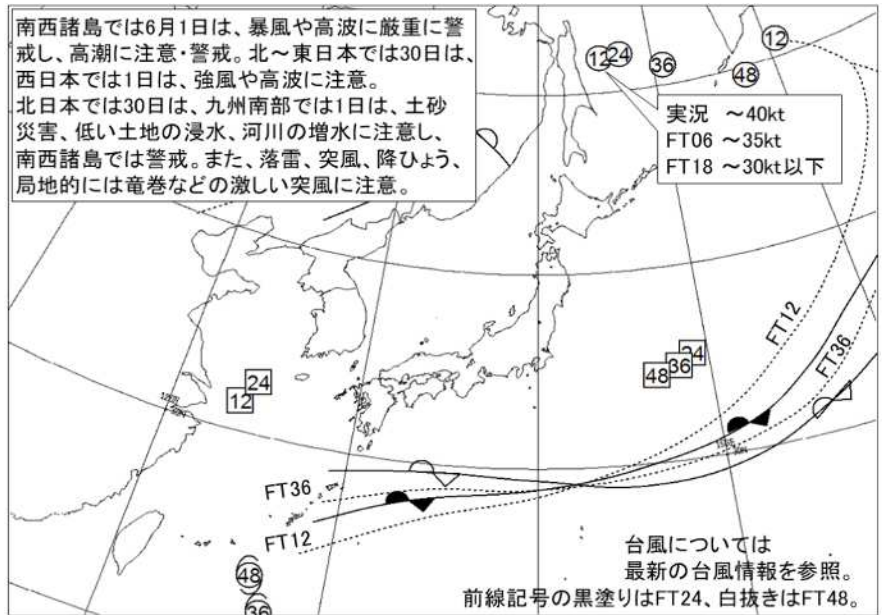


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5340m以下の寒冷渦がサハリン付近にほとんど停滞し、500hPa 5580m付近トラフが北日本を東南東進。北日本には500hPa -21℃以下の寒気が流れ込んで、雷を検知。東北地方では強い雨を観測。
- ② ①の寒冷渦に対応する低気圧がオホーツク海でほとんど停滞。また、前線が日本の東や日本の南を通って沖縄の南にのびており、小笠原近海では対流雲が発達している所がある。日本の南では、500hPa 5880m付近の上層の高気圧の影響で、前線近傍の対流活動は不活発。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦をまわるトラフが30日に北日本を、31日は北～東日本を通過する。1項②の低気圧は、30日はオホーツク海にほとんど停滞し、31日はゆっくり東へ進む。上空の寒気と低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北日本では30日は、土砂災害、落雷、突風、降ひょうに注意し、北～東日本では31日は、対流雲の発達に留意。また、低気圧の影響で、やや強い風や強い風が吹き、波が高くしける所がある。北～東日本では30日は、強風や高波に注意。
- ② フィリピンの東の台風第6号は発達しながら、1項②の上層の高気圧の縁を回って、31日朝にかけて沖縄の南に進み、6月1日は強い勢力で南西諸島に接近する。台風の影響で非常に強い風や猛烈な風が吹き、波がうねりを伴い高く猛烈なしけとなり、高潮のおそれもある。また、台風に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島では1日は、暴風や高波に厳重に警戒し、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒、高潮に注意・警戒。落雷や竜巻などの激しい突風に注意。西日本では1日は、強風や高波に注意。
- ③ 1項②の前線は、小笠原近海ではほとんど停滞するが、日本の南では2項②の台風の東側を北上する下層暖湿気と共にゆっくり北上し、1日夜にかけて種子島・屋久島付近に達する。また、500hPa 5820m付近のトラフが、31日から1日朝にかけて西～東日本付近を通過。前線に向って熱帯起源の下層暖湿気流れ込み、大気の状態が非常に不安定となって雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。九州南部では1日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量 (18時からの24時間) : 多い所(100mm 以上)はない。

② 波浪 (明日まで) : 沖縄6、北海道・奄美4、九州南部3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「全般気象解説情報 (台風第6号)」を17時頃に発表の予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象解説情報等の数値を利用願います。